

福島・飯坂温泉一泊旅行記

日 時：令和元年10月14日(月)・15日(火)

参加者：20名（男性8名、女性12名）

宿泊先：飯坂温泉「伊勢屋」

昨年に続き協会主催2回目の一泊旅行を開催しました。今回は東北福島市の近郊にある飯坂温泉です。ここは東北三名湯のひとつに数えられる東北屈指の温泉地です。伝説によると日本武尊の東征にまで遡り、この地で湯治したといういわれが残っています。かの松尾芭蕉も奥の細道の途中で立ち寄ったといわれている名湯で、地元の人たちや観光客の憩いの場として親しまれてきました。しかし2011年発生の東日本大震災の影響で放射能の風評被害に遭い、往時の賑わいが失われてきました。発生から8年以上たつて関係者の努力により徐々に復興が目に見えてきましたが、未だ震災前の状態には戻っていません。日本産業退職者協会は「社会貢献活動」として震災発生時から被災地に寄り添った支援を続けてきました。今回はその一環として、一泊旅行や買い物等で支援したいという思いで企画しました。

台風19号の襲来で開催が危ぶまれたが、何とか開催にこぎつけることができました。今回もバスの移動で、新宿西口を出発した20名の一行は高速道路も順調に走り、予定どおりホテルに到着しました。宿泊は自家源泉を持つ老舗のホテルで、加温・加水なしの24時間かけ流しのお湯が自慢で、露天風呂も楽しめるところです。



皆さん名湯に浸かった後はお楽しみの宴会です。美しい料理と地元の銘酒が相まって、雑談の花が咲き、宴たけなわとなったところで、舞台では地元旅館の旦那衆のグループ「だべした一ず with 美智子」の登場です。三味線の伴奏で中学2年の美智子さんに、福島小唄と飯坂小唄を披露してもらい、万雷の拍手を受けていました。続いて登場したのが会員の田口文恵さんです。この日の為に日帰りでご参加いただき、舞台では色っぽく歌っていたのが印象的でした。



今回は地元の名士で、防災士でもある佐藤喜市郎さんに貴重なお話をお聴きする機会を得ました。飯坂の地はもともと災害に強い町で、東日本大震災や一連の台風の被害にも遭っていません。しかし放射能の風評被害には勝てず、未だに影響が強く残っているようです。土壌改良で15cmほど土を入れ替えて、今でも野菜の出荷に全量検査を実施しています。佐藤さんもその苦労は並大抵のことではないと言われていました。頑張ってください。



翌日は飯坂の町の見学です。町内にはいくつかの共同浴場があります。中でも鯉湖湯が有名で、いかにも歴史を感じさせる建物が特徴で、俳人芭蕉の他にも、正岡子規や与謝野晶子らも訪れていたといわれています。飯坂のメイン通りともいべきこの周辺は共同浴場や古い旅館が立ち並んで、現在でも営業を続けていて、何か懐かしさを憶えるゾーンであり、この町の歴史を感じさせる空間でした。



次に訪れたのが旧堀切邸。ここは江戸時代から続いている豪農・豪商の家で、県内で現存する最大で最古の土蔵や近代和風住宅など歴史的価値の高い建物が現存しています。写真は旧堀切邸門前の一コマです。味噌の丸滝は田舎味噌、ゆずみそ、丸滝醤油、甘酒等が有名で皆さん我先にと買い求めていました。あずま果樹園では今盛りのリンゴ狩りです。珍しい新種もあって、皆さん早速一つ二つともぎ取り口に運んでいました。お土産にリンゴを買い、味噌や甘酒も加わって荷物が重くなり、帰りは自宅まで運ぶのに苦労するかなと余計な心配をしました。

今回は温泉旅行の他に地元の人たちと親しく接触できたのが最大の収穫でした。飯坂温泉をご紹介頂いた、安達のり子さんの飯坂への深い思い入れ、日頃の人脈作りの情熱があって、初めて実現した旅行会です。ありがとうございました。